

主要定期航路コンテナ貨物の荷動き動向

(2016年4月19日分速報値※)

(公財)日本海事センター・企画研究部

(公財)日本海事センター・企画研究部は、PIERS (Port of Import/Export Reporting Service) の統計データを基に、『日本・アジア / 米国間のコンテナ貨物の荷動き動向』を毎月発表しております。それに加えて、欧州航路、日中航路、アジア域内航路の荷動き動向も発表しております。

主要航路の荷動きのポイント

北米航路 往航 (2016年3月) 1,023,874TEU (24.8%減) (2015年3月: 1,362,354TEU)

復航 (2016年1月) 490,144 TEU (10.2%増) (2015年1月: 444,630 TEU)

- 北米往航 (アジアから米国) は、前年同月比 24.8%減。1-3 月累計では 5.1%増。米国西岸港湾における労働争議を背景に 2015 年 1-2 月の荷動きが減少したため、その反動が大きいとみられるが、14 年 1-3 月と比べても 8.3% 上回っている。一方で運賃は 2016 年初の修復で一時上昇したものの直近では下落傾向。
- 北米復航 (米国からアジア) は、前年同月比 10.2%増。2015 年は労働争議終息後もドル高と新興国での需要低迷を理由に米国輸出は伸びなかった。運賃 (ニューヨーク→塩田間) は 15 年 3 月以降上昇も、6 月以降下落傾向。

欧州航路 往航 (2016年2月) 1,028,981TEU (11.9%減) (2015年2月: 1,168,131TEU)

復航 (2016年2月) 536,780TEU (4.4%減) (2015年2月: 561,204TEU)

- 欧州往航 (アジアから欧州) は前年同月比 11.9%減。年始に行われた運賃修復ののち、運賃下落傾向が続く。
- 欧州復航 (欧州からアジア) は前年同月比 4.4%減。運賃は基本的に下落傾向が続く。

日中航路 往航 (2016年2月) 882,284 トン (14.7%増) (2015年2月: 769,078 トン)

復航 (2016年2月) 1,525,402 トン (17.7%減) (2015年2月: 1,853,237 トン)

- 日中往航 (日本から中国) は、前年同月比 14.7%増。金額ベースでは前年同月比 15.3%増の 5,473 億円。横浜・上海間の運賃は、350 ドル/TEU で推移していたが、2015 年 12 月は 330 ドル/TEU まで下がった。
- 日中復航 (中国から日本) は、前年同月比 17.7%減。金額ベースでも前年同月比 22.0%減の 1 兆 4 億円。CCFI によると、運賃は 15 年 11 月から下落していたが、16 年 2 月は上昇している。

アジア域内航路 (2016年2月) 1,093,536TEU (0.9%減) (2015年2月: 1,103,976TEU)

- アジア域内航路 (日中韓台香 + ASEAN) は、前年同月比 0.9%減。なお、Container Trades Statistics 社の発表では 2016 年 2 月のアジア域内航路輸送量は前年同月比 0.9%減の 260.7 万 TEU。同社の運賃指標は 15 年に入って緩やかな下落傾向で、とくに 8 月以降低い水準で推移。

注 1: 速報値ベースでの発表のため、後に修正が加わる場合がある。

注 2: 日中航路荷動き量は財務省「貿易統計」をもとにした (公財) 日本海事センターによるトンベースでの推計。

図 - 1 北米航路におけるコンテナ輸送量の推移 (単位: TEU)

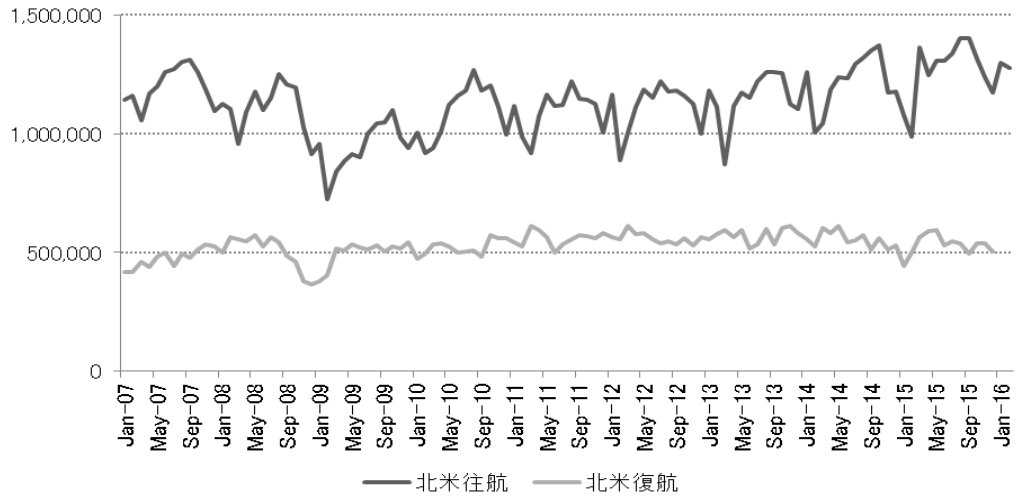


図 - 2 欧州航路におけるコンテナ輸送量の推移 (単位: TEU)

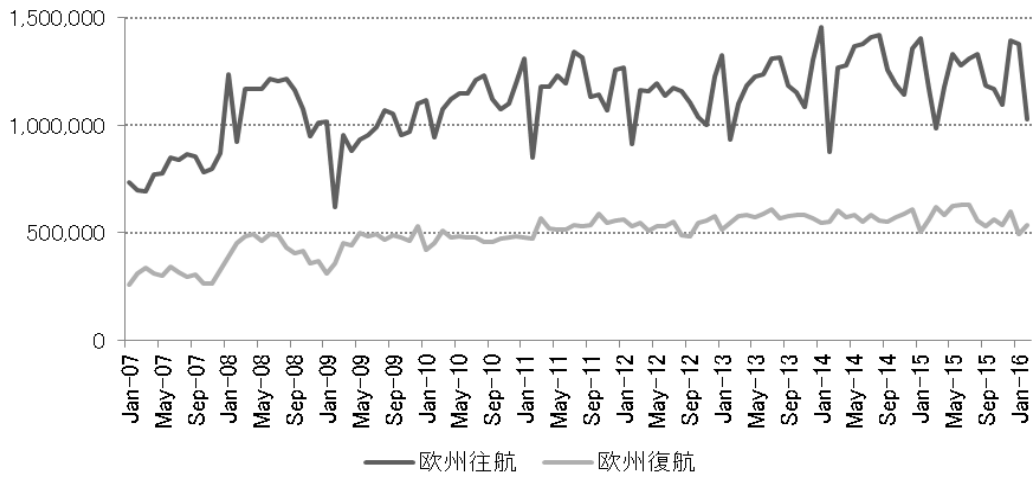


図 - 3 日中航路におけるコンテナ輸送量の推移 (単位: トン)

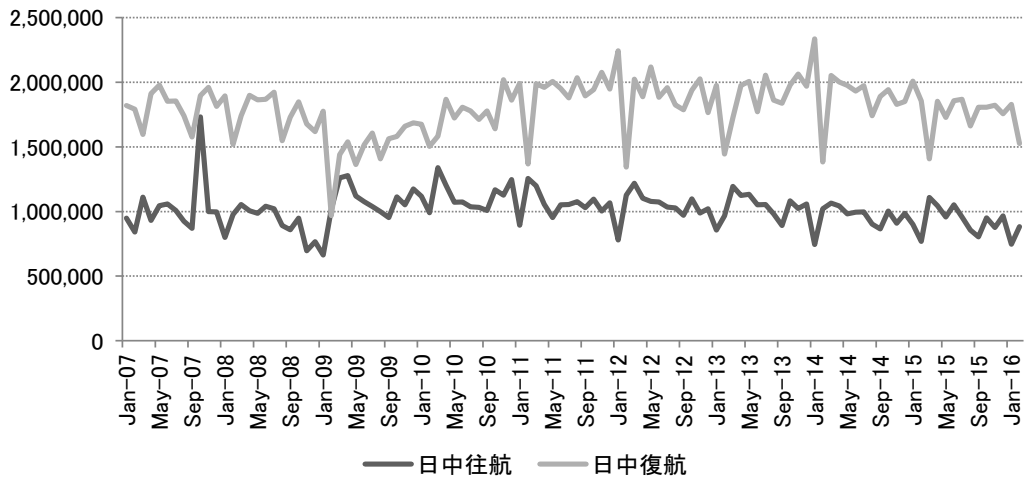


図 - 4 アジア域内航路におけるコンテナ輸送量の推移 (単位: TEU)

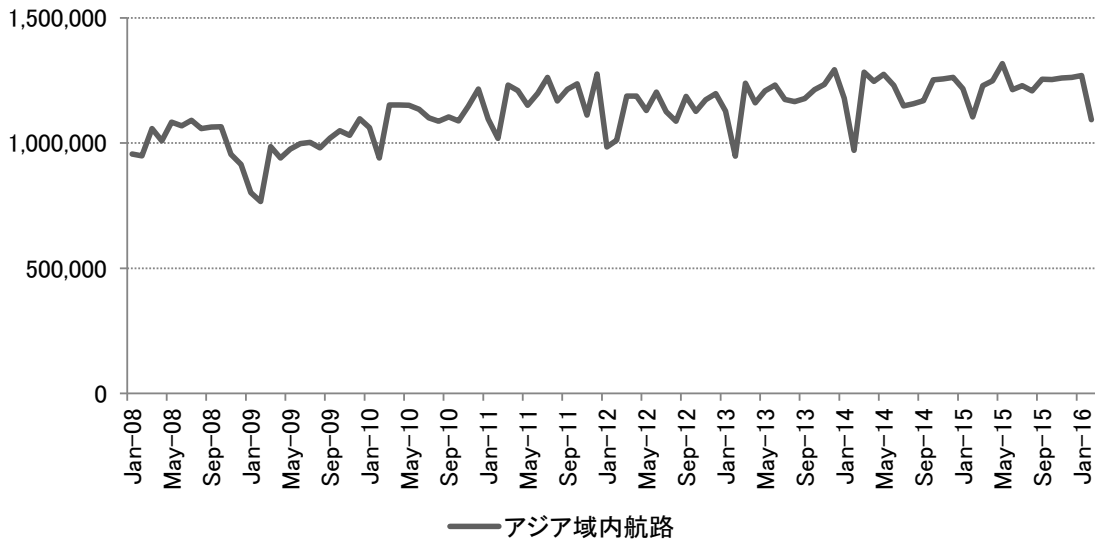


図 - 5 北米航路における運賃指数の推移 (単位: ドル/TEU)

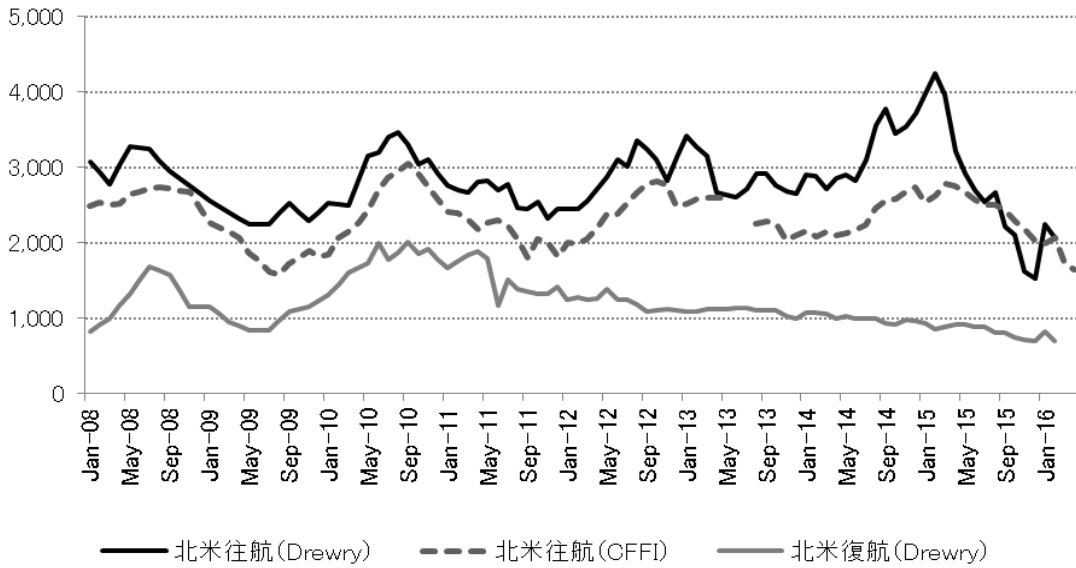


図 - 6 欧州航路における運賃指数の推移 (単位: ドル/TEU)

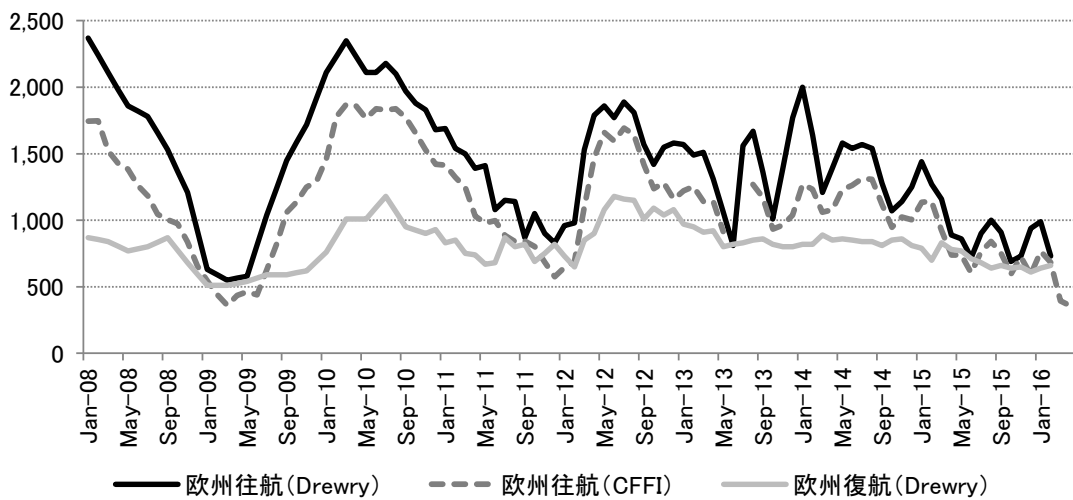
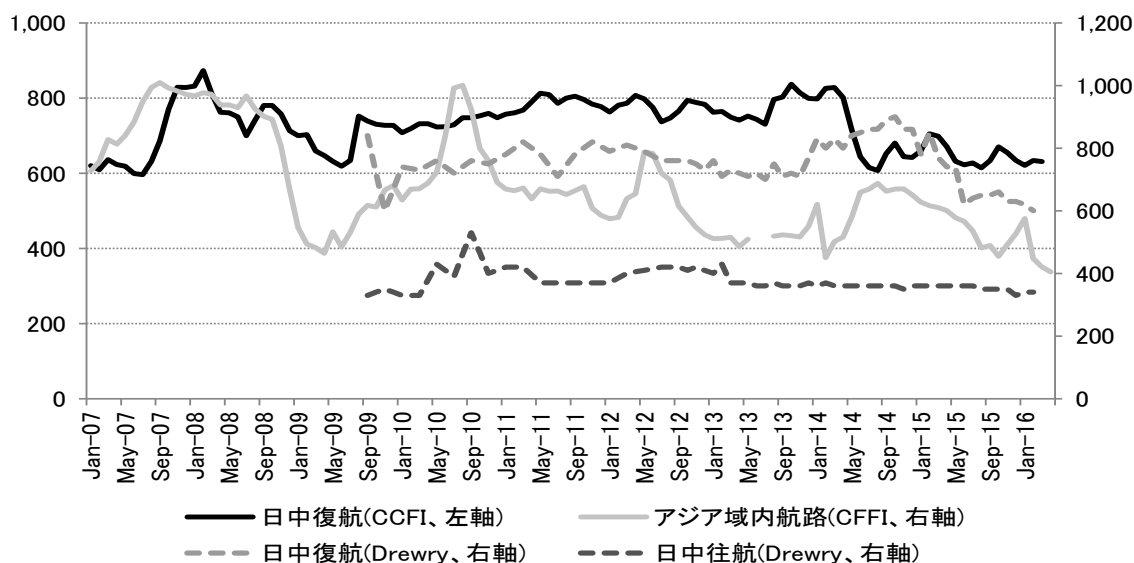


図 - 7 日中航路・アジア域内航路における運賃指数の推移 (単位 : 指数 (左軸)、ドル/TEU (右軸))



(参考) 輸送量・運賃データの出所

- 1.北米航路輸送量 : PIERS (Port Import/Export Reporting Service) データ
- 2.欧州航路輸送量 : ELAA (European Liner Affairs Association; 欧州定航協会)、Container Trade Statistics Ltd.
- 3.アジア域内航路輸送量 : SCAGA
 - 注意 1 : アジア域内航路は、日本、中国、韓国、台湾、香港、フィリピン、マレーシア、ベトナム、カンボジア、インドネシア、マレーシア、シンガポールの 12 各国が対象
 - 注意 2 : アジア域内航路の荷動き量については連続性が確保されていない
- 4.日中航路輸送量 (トンベース) : (公財) 日本海事センター企画研究部 (注意 : 財務省貿易統計に基づきトンベースで推計)
- 5.北米航路、欧州航路運賃指数 (往航では (CI,Drewry) と示した列、復航) : Drewry "Container Freight Rate Insight":南中国 (塩田) と米国東岸 (ニューヨーク)、英国 (フェリックストウ) 間の運賃
- 6.北米航路、欧州航路運賃指数((CFFI) と示した列) : 中国国際海運網ウェブサイト <http://en.shippingchina.com/scfi/index/index.html>
- 7.アジア域内航路運賃指数 (毎月) : 中国国際海運網ウェブサイト (中国・東南アジア間航路の運賃指数)
- 8.日中航路運賃指数 :
 - ・ Clarkson Research "China Intelligence Monthly" (上海航運交易所発表の中国輸出コンテナ運賃指数 ((CFFI) と示した列)) :
 - ・ **Drewry "Container Freight Rate Insight" (中国 (上海) と東京/横浜間の運賃) : 2014 年 4 月発表の資料より変更**
- 9.BDI (バルチック海運指数) :
 - ・ トランプデータサービス "World Maritime Analysis"
- 10.円ドルレート :
 - ・ FRB ウェブサイト <http://www.federalreserve.gov/econresdata/releases/statisticsdata.htm>